

教育のグローバル化にともなうネットワーク活用の現状：課題と提言

4 K-4

中條道雄・福田豊生
関西学院大学総合政策学部

1) はじめに

社会のグローバル化にともなって、国際規模でネットワークを駆使する事の出来る人材を育成することの重要性はますます深まっている。関西学院大学総合政策学部では、21世紀に向けて国際的な視座に立って政策を立案・提言出来る能力を育てるための情報・ネットワークリテラシー教育には特に力を入れている。たとえば、インターネットの電子メールアカウントを与えることによって学生が自由に学外・海外とも交信できる環境作りを進めている。学生にとって電子メール・ニュースやWWWはグループ学習やレポート作成のための必須のインフラとなっている。このような環境での学生・教員のネットワーク活用の現状を紹介すると共に、グローバル化・情報化に関するいくつかの課題を提起し、それに対する将来への提言を行う。

2) 総合政策学部の理念とネットワークリテラシー

関西学院大学の神戸三田キャンパスに1995年4月「総合政策学部」が開設された。本学部は、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」を学部固有の理念として、来るべき21世紀に向けての地球社会の要請に応え得る人材を育成することを目指している。このような理念に基づいて本学部では、わが国では初めて「ヒューマン・エコロジー」を基本的な視座におき、これに社会科学や一部工学・情報科学などの諸科学を総合的に組み合わせ、現代社会のあり方を追求する研究・教育方針をとっている。このように「問題発見・解決、政策提言」型の研究・教育を目指す学部において、いわゆる「情報リテラシー」の知識・技能は教員・学生にとって必須であることは言うを待たない。そのなかでも特に近年におけるグローバルなオープン型ネットワーク（インターネット）の目覚ましい発達により、ネットワークから問題解決のために必要な情報を入手し、それに対する解決案をネットワークによって広く世界に発信できる能力としての「ネットワークリテラシー」の重要性が増大している。

3) ネットワークリテラシーのためのインフラストラクチャー

上記の認識に基づいて、本学部では学部設立の準備段階からネットワークリテラシー活用を推進出来るような教育・研究支援ネットワークが設計・構築された。具体的な要項としては；

1. 学内のほとんどのPCはLAN接続によってインターネットにアクセス出来るように設定されている。
2. コンピュータ演習と語学演習の行われるPC/L教室には電子メール・ニュースのソフトがインストールされている。マルチメディアとしてのVideo on demandシステム、出席管理システムも利用出来る。
3. 教員の個人研究室には全室に電子メール・ニュースのソフトがインストールされたPCが設置されている。
4. 学生が随時自由に利用できるPCが「メディアフォーラム」に35台用意されている。これらにはメール・ニュースのソフトに加えてWWWのブラウザ（ネットスケープ）がインストールされているので、学生は自由に「ネットサーフィン」して各種情報を入手する事が出来る。

4) ネットワークリテラシー教育

政策系学部の学生がネットワークリテラシーを身につける事によって以下のような利点を得る事が出来る。

1. 時間と空間に制限されないグローバルコミュニケーションが可能になる。入学したばかりの1年生でもメール・ニュースを通して国内・国外の同じ関心をもつ学生・研究者と情報交換し、積極的に議論に加わる事が出来る。

Globalization of Education and Network Literacy: Issues and Some Suggestions

Michio Chujo and Toyoo Fukuda

Kwansei Gakuin University

1-2 Gakuen, Sanda, Hyogo 669-13, Japan

2. グローバルな規模での問題の発見・分析を経て解決策を提案するに至る過程で必要となる各種の情報を容易に入手することが出来る。
3. 近年ますます増えている各種検索エンジンを利用する事によって、膨大な情報空間の中から必要な情報を検索することが出来る。検索目的に適合する検索エンジンを活用する事によって検索の時間と労力を大幅に軽減する事が出来る。
4. 問題発見・政策提案型の教育を行っている本学部の学生にとって、情報を受身的に受信するだけでなく、広く世界に発信することが出来る能力を養うことは大切である。WWWにホームページを作成する事によってこれが比較的手軽に可能となる。

学部開設より約1年半を経過して、学生のネットワークへの関心と活用への積極性は当初の予想を上回った。学生の利用状況について以下の点を指摘する；

1. 学生にとって一番わかりやすく、すぐになじむアプリケーションは電子メールである。プログラムの起動方法と基本操作を教えただけで学生どうしてメールを送りあうようになる。ほとんど全員が毎日のようにメールを読み書きしている。
2. WWWは一部の学生にとって非常に魅力的なようで、勉強のための情報収集にも使っているが、趣味（音楽・スポーツ等）の世界でのブラウジングも多い。その反面ほとんど使っていない学生もいる。
3. 神戸三田キャンパス内専用のニュースグループとして事務室からの連絡用と学生が自由に投稿出来るものの二つを設けた。学生用のニュースグループには、授業についての議論から落とし物の掲示まで、広い範囲の話題が展開された。ニュースグループを定期的に読んでいる学生は一部で、しばしば投稿している学生はさらにその一部である。
4. 自宅・下宿からネットワークにアクセスしたいとの強い要望が出た。自分でモデムや必要なソフトを購入して、アクセスする学生が増えてきている。モデムやソフトの設定等がまだ複雑で、てこずる学生が多い。
5. 語学をはじめとするいくつかの科目で課題・レポートを電子メール・ニュースで提出するシステムとなっている。Wordで作成した文書をメール・ニュースに同封して提出する学生も多い。

5) 今後への課題

学生のインターネット利用が増大するにつれていくつかの問題点と課題がうかびあがってきた。

1. 学生が随時自由に使えるクライアントPCの数が不足している。コンピュータ教室を授業の無い時は開放しているが、特にハードコピーで提出する宿題の締め切り時等、プリント待ちでメディアフォーラムが混雑する。ネットワーク接続されたPCの数を増やす必要がある。
2. WWWの反応が目立って遅くなって来ている。現在、神戸三田キャンパスにローカルなサーバーを置いて大容量のキャッシュを設定する作業中であるが、インターネット利用（特にWWWの画像・音声・動画）の爆発的な伸びによってグローバルなレベルでネットワークが輻輳している。回線の高速度等、ネットワークインフラの拡充・整備が急務である。
3. 学生が自由に読み書き出来るニュースグループ（ksc.student）を話題別に細分化（お知らせ、サークル、討論など）して欲しいとの要望が出て来た。細分化させることによるメリットとデメリットがあり、どのように（どこまで）分けるかについての意見がかとまりにくい。
4. インターネット（特にWWW）では膨大な情報を手軽に入手出来るが、ある主題・課題について調べる時、目的にあった高品質で陳腐化されていない情報を収集するのは簡単でない。本学部の学生向けの「インターネットの有効な利用法」といったガイドブックを作成すると活用されるであろう。

6. まとめ

インターネットが今後ますます発展・普及していくに伴って、情報リテラシー教育の一環としてこれを駆使して情報を収集・発信出来る能力を身に付けさせなければならない。現在用いられている個別の「技術」（電子メールの使い方、ホームページの作成法等）を教えるだけでなく、それらの背後にあるネットワーク社会への大きな「流れ」を把握し、今後の更なる展開に技術的・倫理的に付いていける人材を育てることが重要である。このために、今後ますますグローバルなネットワークインフラの整備をはからねばならない。